

港区観光振興ビジョン検討委員会 議事録

第1回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）・・・	1頁
第2回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）・・・	7頁
第3回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）・・・	13頁
第4回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）・・・	21頁

## 【会議録（書面会議）】

会 議 名	令和2年度第1回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）
開 催 日 時	令和2年6月26日（金） 会議開催通知及び資料送付 令和2年7月7日（火） 委員からの意思・意見集約
開 催 場 所	書面会議により開催（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため。）
委 員 員	東 徹 委員長 渡邊 仁久 委員 平林 隆浩 委員 高尾 英樹 委員 長尾 哲治 委員 荒井 隆一郎 委員 服部 崇 委員 小門 謙 委員 グリュモフ イザティラ 委員 唐木 ひろ子 委員 野村 知義 委員
事 務 局	産業・地域振興支援部 観光政策担当
会 議 次 第	審議事項 第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について
送 付 資 料	次第 資料1 第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について 資料2 第3次港区観光振興ビジョン前期計画の進捗状況 資料3 港区観光動態基礎調査(令和元年度実施)抜粋 資料4 第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案） 資料5 第3次港区観光振興ビジョン改定検討体制 資料6 スケジュール 資料7 第3次港区観光振興ビジョン【冊子】 資料8 第3次港区観光振興ビジョン後期計画策定にかかる観光動態基礎調査報告書【冊子】 別紙 意向確認書

第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について

(意見者)  
委員A

(委員からの意見)

- ・ 「マーケティング」と「プロモーション」の関係が不明確。マーケティングは「市場調査」やデータ分析のことではない。プロモーションは、マーケティングの一領域であり、コミュニケーションを通じて、需要の喚起、ブランド・イメージの形成等を図るための「マーケティング・ツール」として扱われている。
- ・ 「観光業」という言葉が安易に使われる傾向にあるが、「観光業という特定の業種」は存在せず、多様な業種にわたるビジネスが観光需要を受け止め、支えている。特に都市観光の魅力は「集積力」にあり、同種（類似の業種が「累積」すると同時に、多様な業種が「補完」しあうことによって特徴的な集積が形成され、集客力特定の客層、もしくは多様な客層への訴求力が生まれる。その集積のし方、特性によって、利用者の「タウン・イメージ〇〇の街」が形成される。
- ・ 港区内の各地区をゾーニングし、各地区の観光特性を際立たせる明確なコンセプトを定め、各々の観光課題を明らかにし、戦略を策定していくことが求められる。
- ・ ゾーニングは、各地区の資源特性とともに、利用者の視点（利用目的、タウンイメージ等）・動線（回遊ルート）を考慮して行う必要がある。
- ・ 特に都心部において、利用者は「区の境界」を意識することはほとんどない。ゾーニングを行う際には、隣接する区とのコンセプトの共有と協力しあったプロモーションが必要になる。
- ・ 隣接エリアとの連携と差別化。例えば、「原宿・青山・渋谷エリア」を一括りに「若者を中心とした活力あふれるファッションの街」とすることも可能なように思われるが、原宿はより若年層中心の街であるのに対して、青山は大人のファッションの街と考えることもできる。青山に隣接するエリアは現在再開発が進行中であり、JR線を挟んでより大人の街客層＝高感度な大人、客単価が高めのショッピングタウン、文化の発信地へと変貌を遂げつつある。青山エリアを渋谷との連続性で考えるか、成長とともに原宿から移動してくるエリアとしてとらえるかなどを考える必要がある。
- ・ 「観光ルート」を策定する場合、どのような基準で行うのかが問題。例えば、①「テーマ」（歴史、文化、アート、ファッション等）、②「移動の合理性・効率性」（メトロ、都バスなどのルート）、③「移動手段」（徒歩、自転車、公共交通機関等→例えば、メトロ、JR、バス、水上交通など多様な交通機関を乗り継ぐ楽しさ）等々。その場合、ゾーニングと同様、資源特性と利用者視点を考慮することが重要。
- ・ 港区における「民泊」の位置づけは取り上げる場合、「観光の視点」だけから民泊を議論すべきではない。ましてや所管部署が「保健所だから」などという「行政の縦割り」はするべきではない。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大は、「インバウンド・ロス」をはじめ、観光

需要の著しい減少をもたらし、関連する諸事業に深刻なダメージを与えている。こうした危機的状況が一日も早く終息することを誰もが望んでいるものの、現実にはインバウンド需要が回復するのは、ワクチンや治療薬の開発、各国における感染の沈静化とそれらに伴う出入国規制の緩和が必要であり、当面（1年以上、少なくとも2021年開催予定の「オリ・パラ」まで）は期待できないものと思われる。そのため、まず国内観光需要（21.9兆円市場）を前提とした観光振興が求められるが、昨今の都内の状況や第二波への懸念もあり、都道府県を越えた移動が制約されることを考えれば、「近隣観光・地元観光」から回復し始めると考えるべきであろう。

- ・ とはいえ、近隣・地元観光は、日帰り需要であり、ショッピングや飲食等の業種にはよくても、宿泊業にとっては需要回復にはつながりにくい。宿泊業にとっては、「デイクース需要」の創造に加え、「泊まる意味・理由」（ホテルに滞在する楽しさ）を生み出し、自ら宿泊需要の創造に取り組む必要がある。
- ・ さらには、都が懸念する「最大のクラスター」となりうることから、当面は「ナイトタイム・エコノミー」の振興は控えることが求められる。「ウィズ・コロナ」を余儀なくされる現段階では、来街者の安心・安全を大前提とした観光振興が必要である。
- ・ 「オリ・パラ」については、都知事が「規模縮小・簡素化」の意向を示しているが、感染状況によっては2021年の開催も確定的ではない。いずれにしても、開催されるのか否か、開催される場合でもどの程度の規模での開催になるのかはいまだ不透明であり、様子を見ながらでないと、議論できない状況にある。
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。

委員B

- ・ 異議なし
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。

委員C

- ・ 柱となる5つの施策は据え置き、新型コロナウイルス収束後の観光動態を踏まえた有効な取り組み実現に資する見直しが必要である。

【初来日外国人増に向けて】

- ネット、ブログ、口コミサイトでのターゲット年齢層に応じた港区情報の露出強化（旅マエ・ナカ）
- 体験素材を切り口とした未訪問、マイナー施設への誘客。マイナー＋マイナー＝面での観光提案（日本的商店街、生活体験、坂、訪日専用商品券等）
- 多言語対応によるストレスフリー環境整備

【MICE誘致による日本人客入込増に向けて】

- ユニークベニューとして区内施設活用促進（非公開、歴史的建造物、大使館等）
- 新規開催時補助金
- 参加者向け地域利用券配布
- ・ 観光協会会員数については、会員数は単なる数の拡大ではなく、協会自体の

	<p>価値向上に資する会員構成を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>
委員D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>
委員E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症が流行したことにより観光・商業・生活に大きな打撃を受け前年度までとは社会を取り巻く環境が大きく変化して見直しは必須の課題である。</li> <li>・ 観光産業や経済活動の新型コロナからの回復が長期化する事も予測されるため感染症終息後（after コロナ）を見据えた事業や取組よりも新たな生活様式に沿ったWith コロナを念頭に置き方向性を策定する。</li> <li>・ 今回の新型コロナは都心部、特に人と人との接触による感染拡大が起るため、受入れる施設側の不安心理も払拭するよう、万全な安全策を行っていかねばならない。</li> <li>・ 段階的なターゲット案の時期や移行判断の数値的な目安が必要（難しい判断になりそうな予感）であろう。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>
委員F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の観光振興策を考える上で、「新型コロナ感染防止」が全ての前提と捉えることが必要と考える。</li> <li>・ 施策1. シティプロモーションについては、インフルエンサーによる情報発信について、更に注力していくべきと考える。</li> <li>・ 施策2. 受入環境づくりについては、観光客の受入環境整備について、民間事業者との緊密な情報収集・連携により進めていくべきと考える。これからは「旅の安全性（感染防止の観点）」を高め、如何にその安全に対する訴求力を持たせられるかが重要と考える。</li> <li>・ 施策3. 観光資源の発掘・活用と観光ルート創出については、これからは国内観光の活性化が重要となるため、これまでまだあまり知られていない観光資源の更なる発掘や、滞在型観光の振興などに特に注力していくべきと考える。</li> <li>・ 施策4. 多様な主体との連携による観光振興については、区内各地域間連携、全国各地域間連携は今後の大変重要な要素と考える。その際、シーズンオフでも、年間を通して観光客を呼び込める工夫を図ることが必要と考える。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>
委員G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の観光施策を具体的に策定するにあたっては、新型コロナの影響をどう捉えるか、マーケットの現状や見通しだけでなく、大きく変貌した生活環境や心理的要素を如何に考慮していくかが大きなポイントだと思う。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>
委員H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ターゲット毎（国内観光客…）」の“毎”は“ごと”が適当ではないか。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>

委員 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>
委員 J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現ビジョンの柱の5つの施策についてはこの通りで良いと思われるが、新型コロナウイルスにより人々の意識の優先順位が変化している点（安全・安心優先）を踏まえ、5つの施策を同じ比重で並列的に進めるかどうかについて、検討する必要もあるのでは、と思われる。</li> <li>・ ビジョン見直しについてオリンピック問題は不可避である（開催／無観客開催／中止など）。それぞれの場合のシミュレーションをある程度示すか、10月のIOC判断後に検討するか、時期的な目安も含めて欲しい所である。</li> <li>・ 実際の来訪が難しい状態で、今後プロモーションを含めた情報発信は益々重要になると考える、一方通行の発信にならないよう、人気スポットのWeb投稿によるグッドコメントやアイデアに対して特典やポイントを付与するなど、ユーザーにお得感を感じてもらえるような方法で効果を上げることが望ましい。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する。</li> </ul>
委員 K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍における観光は、訪問地における感動以上に旅行者のメンタリティを重視し旅行の安全性を担保できることが重要であると思う。</li> <li>・ 今冬季11月12月期の第2波、年末年始から春先までは予定が立たないとする考えは誰も推測しているところではないか。コロナ禍終息するまでには、数年を要すると言われている。徐々に観光客の行動には変化が生じ、新たな状態へと変化することも考えて行くことが必要である。</li> <li>・ 特にインバウンドを対象とした観光振興から国民を対象とした国内宿泊旅行者を増やす観光振興へのシフトが必要。今後、GoTo キャンペーン等の観光推進策により宿泊する観光客の満足度向上、「観光客の行動変容」への対応（個人旅行から個人サービスの充実）が必須であろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わる様々な課題について、十分な精査と分析、各種データを基本として感染状況、社会情勢の推移に合わせた事業運営が必要ではないかと思う。すなわち 数パターン考えておくことが必要であろう。</li> <li>➢ 今後、国内の観光訪問者を対象とする旅行が増大すると推測される。港区は全国連携を推進することで日本全国の都市と友好関係を構築している。港区への観光客として積極的に誘致することも大切と考える。実施内容については、従来の港区要所（寺社等）案内と合わせてイベント開催が可能である。</li> <li>➢ 観光関連産業との連携・支援については、重要な事業と考える。今までにない「新しい生活様式」における観光が振興するのではないかと考える。港区内観光を進めるにあたっては、「感染症対策のガイドライン」を遵守し、観光客と地域住民に理解して頂くことが必要となり、その方法、仕掛けを検討することが必要であろう。商店、レストラン、カフェ等の旅行者を案内する場所が港区で認証された場所であることを示す「コロナ対策店の証」公衆衛生基準を満たす店に対して「クリーン認証」等の適合マークを付与す</li> </ul> </li> </ul>

	<p>ることも安心・安全材料となるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 港区観光ボランティアの会では、案内活動が軌道にのるまでの間は、観光ルート開発に注力し魅力ある複合的な観光案内を作成する予定である。今後の取組については、検討時間を十分費やし、この時期に合致する施策をつくることが重要である。検討にあたっては、旅行業者はじめ実務に関わる多くの方々からのご意見を伺うことが必要と考える。</li> <li>・ 未着手、運用、活用方法を熟知していないが故に手つかずのシステムもありそうである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ禍の中にあっては港区財政の予算の削減、感染防止対策費、助成金費用等の出費が多くなるのではないかと思料される。</li> <li>②90 種類の事業の進捗及び予算管理を少数の職員で行うことに無理は無いのか。</li> <li>③90 の事業については、選択・予算集中し確実な事業成果を出せるような施策が必要ではないか。</li> <li>④事業推進の一般的な手法として、ロードマップを基に期限までに業務を遂行する。その都度進捗度が分かり（見える化）遅れている場合は、要員の投入もあり得る。計画された事業が立ち消えになるような進め方を避ける必要がある。</li> </ul> </li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）について」は承認する</li> </ul>
事務局	委員の皆さまからいただいた意見を踏まえて改定作業を進め、具体的事業の立案につなげていく。
委員長	<p>（結論）</p> <p>審議事項「第3次港区観光振興ビジョン改定の方向性（案）」について、承認11、否認0名意思表示があったため、港区観光振興ビジョン検討委員会として、承認するものとする。</p>

## 【会議録（書面会議）】

会 議 名	令和2年度第2回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）
開 催 日 時	令和2年9月10日（木） 会議開催通知及び資料送付 令和2年9月23日（水） 委員からの意思・意見集約
開 催 場 所	書面会議により開催（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため。）
委 員 員	東 徹 委員長 渡邊 仁久 委員 平林 隆浩 委員 高尾 英樹 委員 長尾 哲治 委員 荒井 隆一郎 委員 服部 崇 委員 小門 謙 委員 グリュモフ イザティラ 委員 唐木 ひろ子 委員 野村 知義 委員
事 務 局	産業・地域振興支援部 観光政策担当
会 議 次 第	審議事項 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について
送 付 資 料	次第 資料1 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける 施策実現の方針と事業（案）について 資料2 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）の政策体系（案） 資料3 新しい生活様式と新しい旅のエチケットについて 資料4 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）の方向性（案）に 対するご意見 資料5 第1回港区観光振興ビジョン検討委員会議事録 別紙 意向確認書

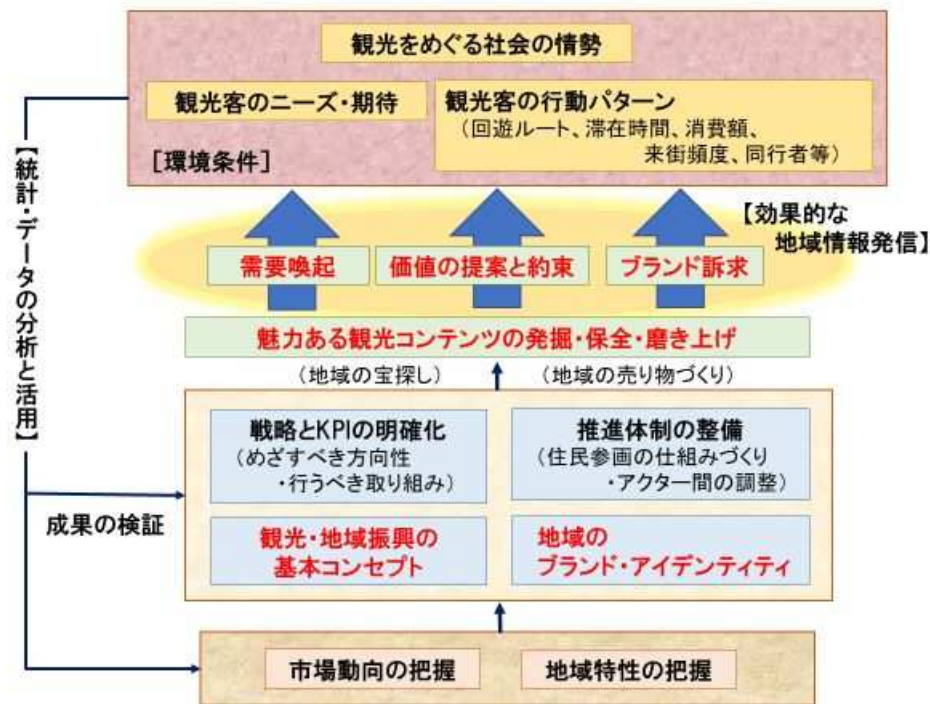


第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について

(意見者)  
A委員

(委員からの意見)

- ・ 全体の体系について、下図のように提案したい。



- ・ ビジョンがめざすべき理念として、「住まう人々にとっても、訪れる人々にとっても利便性と快適性に富み、“楽しく、ワクワクするまち”（＝住んでみたい、行ってみたいまち）をめざす地域づくり」を提案したい。
- ・ 施策5を「統計・データの分析・活用による市場動向の把握とマーケティング活用」としてはどうか。
- ・ 今年は社会の状況が激変した。安易な楽観的見通しを前提にするのではなく、この3年間、着実に取り組むべき課題・施策に重点を置くべき。特にインバウンドに関しては先行きが極めて不透明であり、当面は国内観光市場を対象とした取り組みが求められる。都民・区民、首都圏の近隣住民等をターゲットにした「近隣観光・地元観光」の推進を図る必要がある。
- ・ 近隣・地元観光を住民（都民・区民）が地元の魅力を再発見する機会としてとらえ、住む喜び・楽しさ・誇り（⇒シチズン・プライド）を感じられる仕掛けづくりを行うべき。
- ・ 地域の観光振興策では、とにかく情報発信ばかりに力を入れる傾向があるが、その前提として、魅力ある観光コンテンツの発掘（再発見・再評価）・保全・磨き上げが重要となる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域情報発信は、地域の内外に対して、地域のブランド・アイデンティティ（地域の自画像・理想像＝どういう地域として見られたいか）を意識して行われるべき。</li> <li>・ 推進体制づくりの一環として、エリア別に分科会（〇〇エリア・プロデューサー会議）を設けて、各エリアごとに地元の力を活かした魅力づくりに取り組んでもらうのはどうか。</li> <li>・ 区内のエリア別に、地元の知恵・力を活かした「歳時記」（＝魅力カレンダー）を作成してみてもどうか（神社仏閣の祭礼、企業や商店街のイベント・催事、季節ごとの景観（花、イルミネーションなど）等々を盛り込む）。⇒例えば、原案を区内の各小・中学校から募集し、発表・展示会を開催するのもよいのでは。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
B委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
C委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
D委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
E委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
F委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍にあり、経営への悪影響により事業者から切実な声があがっている。事業者支援は本ビジョンの管轄外かもしれないが、この国難による影響は数年に亘ると予測する識者もいる。是非、今後も引き続き民間事業者支援の施策を充実させていただきたい。行政には観光関連において、事業者がビジネスしやすい環境整備の充足（例えば、WiFi 網整備など。ハード・ソフト両面）を希望する。</li> <li>・ 今後暫く外国人観光客が見込めない中、国内観光客の消費喚起策や、マイクロツーリズム対策が重要と考える。メリハリをつけた施策実行を希望する。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>

## G委員

- ・ 今後コロナが収束しても、観光を取り巻く状況が以前の通りに戻ることは想像しにくい。特に海外からの観光客が元に戻るにはかなりの期間を要することが見込まれ、また、日本人の海外への旅行もかなりの間、差し控えられることが予想される。今後3年間の観光振興ビジョンを策定あたっては、この点を考慮することが不可欠であると考える。
- ・ そのため観光プロモーションにあたっては、対象を日本人中心にシフトことが求められる。港区の居住者はもちろん、他地域からの就業就学者など所謂地元感覚を持っている人いかに港区が多様な観光資源を持っており、近場でこれだけの楽しみを得ることができるということを改めて認知してもらい、住む人、通う人の利用を促進することが港区観光活性化の重要なポイントであると考え。地元でありながら、近くにありながらまだまだ認知がされていないような情報の港区内に向けての発信に具体策をもって取り組むべきである。
- ・ 将来の観光政策の柱としてインバウンド対策は不可欠であることは論を待たないが、ここ数年に関しては、その回復が不透明で、区としての対策だけではその効果への期待は残念ながら大きくは望めない。港区は区民も就学就業者も他の地域より高額な所得を得ている層が厚いため、その層への観光資源の利用促進がまずは、一番効果が望めるのではないかと考える。
- ・ この半年で、多くの観光施設（宿泊、飲食、ショッピング、イベント、鑑賞、体験等）はそれぞれにかなりのレベルでコロナ対策を実施し営業を継続してきたものの、どこも大変厳しい状況に置かれている。観光資源であるこれらの施設を港区民、および港区の就業就学者が利用し活性化することは、区内の観光資源を将来に渡り維持することにも直結することとなる。
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。

## H委員

- ・ 新型コロナウイルス感染症については、現状では、計画期間の令和3（2021）年度から3年間において、治療薬やワクチンが開発され、フィジカルディスタンスとか新しい生活様式といった言葉が過去のものとなっているか、それとも依然猛威を振るって感染が継続しているか、全く先が見通せない。そのため、当該第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）の中で、「新型コロナウイルス感染症収束後の」とか「新しい生活様式に応じた」といった表現を使うのは適当ではないと考える。
- ・ 事業「1（2）②多言語対応可能な観光ボランティアの育成・支援及び連携」とあるが、観光ボランティアには「やさしい日本語」の研修を必須とすべきである。なぜなら、「港区国際化に関する実態調査」（2016年度）でも「やさしい日本語」であれば分かる外国人が72%に上っているからである。そこで、「1（2）② やさしい日本語を含め、多言語対応可能な観光ボランティアの育成・支援及び連携」とするのが妥当である。
- ・ 事業「2（2）②周遊性の高い安全・安心な観光ルートの開発」において「安全・安心な」という文言が追加されているが、委員指摘では特にその

	<p>点について触れられていないし、観光ルートが安全で安心でなければならないのは当然である。敢えて明記する必要はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業「5（1）④外国人・留学生・著名人等を活用した観光情報の発信」については、類似性から統合するとあるが、海外からの入国が厳しい現状において、「国内在住の外国人ライターや留学生をネットワーク化し、彼ら目線での港区の取材・記事・情報発信・SNS 拡散などで PR・プロモーション活動を行う」といった内容は是非盛り込んで頂きたい。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人観光客の誘客に力を入れていることに感心した。コロナ収束後の方針も明確で、わかりやすい。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
J 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジョンの期間見直しは適切と思われる。今後の情勢によってはよりきめ細かな見直しが必要となるかもしれない、その場合は計画にとらわれず柔軟に進めていただきたい。</li> <li>・ 安全・安心について、利用者にわかりやすいよう基準が可視化できる取り組みをお願いしたい。</li> <li>・ 港区の魅力をきめこまかく発信していく上でもボランティアガイドの育成は欠かせないものとする。現行の計画では、港区観光ボランティアガイド育成のための講座は令和2年度までとなっている。現在活動しているボランティアメンバーも、高齢化や健康・家庭の理由等でこのままでは実働数の減少が懸念される場所であり、引き続き区公認のボランティアガイドを育成していくことが望まれる。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後期3ヶ年計画におけるビジョン見直しであるが、見通しのできないコロナ禍の現下、2020 オリンピックの開催有無の不可実性を考慮すると、資料1の序文に社会の状況に応じて再度検討会で検討、修正することが有る旨の一文を追記すべきと考える。（3項に同種の表現があるのでくどいかもしれない。しかし、読者は「はじめ」の段階で全体を理解する場合もあるだろう。）</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）について」は承認する。</li> </ul>
事務局	<p>委員の皆さまからいただいた意見を踏まえて施策実現の方針と事業（案）の見直しを進め、ビジョン作成作業につなげていく。</p>

委員長	<p>(結論)</p> <p>審議事項「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける施策実現の方針と事業（案）」について、承認11、否認0名の意思表示があったため、港区観光振興ビジョン検討委員会として、承認するものとする。</p>
-----	---

## 【会議録（書面会議）】

会 議 名	令和2年度第3回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）
開 催 日 時	令和2年10月8日（木） 会議開催通知及び資料送付 令和2年10月16日（金） 委員からの意思・意見集約
開 催 場 所	書面会議により開催（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため。）
委 員 員	東 徹 委員長 渡邊 仁久 委員 平林 隆浩 委員 高尾 英樹 委員 長尾 哲治 委員 荒井 隆一郎 委員 服部 崇 委員 小門 謙 委員 グリュモフ イザティラ 委員 唐木 ひろ子 委員 野村 知義 委員
事 務 局	産業・地域振興支援部 観光政策担当
会 議 次 第	審議事項 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける具体的取組（案）について
送 付 資 料	次第 資料1 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける具体的取組（案）について 資料2 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）の具体的取組（案） 資料3 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）の施策実現の方針と事業（案）に対するご意見 資料4 第2回港区観光振興ビジョン検討委員会議事録 別紙 意向確認書

会議の結果及び主要な意見

第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける具体的取組（案）について

（意見者）

（委員からの意見）

**【施策1. 快適で安全・安心な都市観光を満喫できる環境づくり】**

F委員

- ・ 観光客の移動において港区は正にゲートウェイの位置にあると思う。これからの新たな移動の形を考え、MaaS対応など、人の移動とモノ（手荷物など）の移動の快適性を追求していくべき（例えば、空港から手荷物を持たずに観光地へ行くことができ、荷物はホテルへ直行するなど）。
- ・ 快適移動は、ストレスフリー、バリアフリーにも通じる施策になると考える。
- ・ 外国人観光客がストレスなく観光できるような対応として、外国語対応のできる観光ボランティア、観光通訳ガイドを増やしていくべきと考える。

G委員

- ・ 全体的にコロナによる影響を踏まえて見直されており、今後の観光の在り方を想定しての取り組みが示されている。その中でも区民をはじめ就業者に向けて改めて地域の魅力の発掘・発信は特に重要と考える。
- ・ 港区には多くの大使館が集まり、様々な国籍の方が居住しており、世界各国の食を愉しめる料飲施設が区内全域に点在する。
- ・ 海外渡航がいつまで制限されるかは不透明ではあるが、近隣で異国情緒を味わえるということでは、計り知れない観光資源を有していることになり、特にコロナによる利用客の減少に見舞われている料飲施設の利用促進は街の魅力を保つという意味でも早急に対応が求められる。
- ・ 多言語対応、キャッシュレス化の促進、オンラインの活用やAIなどの技術を駆使しての観光情報の発信等は、海外からの観光客が再び訪れるようになった時に向けての観光インフラの基礎体力強化にも繋がる課題であるので、しっかりと取り組んでおく必要がある。例えば、観光インフォメーションセンターでの多言語翻訳機の導入など、一つ一つの項目に対しより具体的に策を講じ、施策を実現させていくことが肝要である。

H委員

- ・ 可能であれば表現方法の提案をしたい。
  - ✓ 原案：区内の事業者と連携し、増設を推進するとともに…  
修正案：区内の事業者と連携し、”観光インフォメーション”増設を推進するとともに…
  - ✓ 原案：外国人習慣等への対応  
修正案：外国人”の”習慣等への対応
  - ✓ 原案：一般社団法人港区観光協会のホームページで…  
修正案：一般社団法人港区観光協会”や一般財団法人港区国際交流協会”のホームページで…
  - ✓ 原案：観光ボランティアの支援及び連携  
修正案：観光ボランティアの”育成”支援及び連携

**【施策2. 観光資源の発掘・活用と観光ルートの創出】**

- A委員
- ・ 「資源化」という表現に違和感を感じる。「魅力の資源化」ではなく、「資源を磨き上げて魅力化」や「地域資源を観光に活用する」という表現であるべきであろう。資源を観光に利用しているのである。他にも「地域資源を観光活用することによって経済効果を引き出す」や「地域コンテンツの観光魅力を引き出す」「地域資源の観光魅力を引き出していく」「地域の資源を観光活用する」「地域資源に観光的な価値を見つける」といった表現にすべきである。
  - ・ 各地区の魅力の発信について、港区を訪れる観光客は、「赤坂」や「お台場」に来訪しているのであって、「港区」を訪れているわけではない。港区の観光は各地区の魅力に依り、地区ごとの特性の上に、「港区」が成り立っているので、「港区ブランド」として発信するのは難しいのではないか。
  - ・ 「水辺の魅力」、「大使館」と連携しての魅力づくりができるのは面白い視点である。

- F委員
- ・ 魅力的な観光コンテンツの充実として、区内で映画やドラマ、小説の舞台となる地域の魅力発掘・発信を行ってはどうか。いわゆる聖地巡礼など、全国各地で取り組んでいるところがあるが、都心区ではあまり活発ではないような気がする。
  - ・ 映画などロケーション誘致・フィルムコミッションについての取り組みはどうか。地域の魅力発掘に繋がると考える。
  - ・ まち歩きツアーの催行は民間に任せて、区ではそのルート開発や人材育成に力点を置くべきと考える。
  - ・ 自転車シェアリングの取り組みは是非推進すべき。都心区では名所・旧跡など観光地間の距離が近いため、自転車は有効な移動手段になると考える。実施にあたっては、利用料の決済手段や、乗り捨てをしやすくするなど、より一層、利便性向上に努めていただきたい。

- H委員
- ・ 大使館の声を届けるために、取組「大使館等と連携した観光情報の発信」に港区国際交流協会もメンバーに入れてもらいたい。

**【施策3. 多様な主体との連携による観光振興と観光関連産業の育成】**

- A委員
- ・ インバウンドだけではなく、住んでいる外国人とで国際交流、魅力づくりができるのではないか。

- F委員
- ・ 観光振興にあたり、観光関連人材の育成が重要と考える。そのため指導者の育成にも注力すべきと考える。
  - ・ 区内では数多くの再開発プロジェクトが行われ、また、進行中である。しかし、区内各地域間の情報共有・地域連携にはまだまだ課題が多いと考える。まちづくりとの連携にあたっては、区内各地域の横の連携、地域間連携を今後、積極的に行っていくべきと考える。
  - ・ 「東京 2020 大会による観光需要を一過性のものにしない」ことは全くその通りと思う。この機会に訪日した外国人観光客や大会関係者など、外国



人訪日客への積極的なプロモーションを行い、日本の魅力を十分に伝え、今後末永く日本を訪問してくれるリピーター作りを戦略的に行っていくべきと考える。

**【施策4. 統計・データの分析・活用による市場動向の把握とマーケティングの活用】**

- A委員
- ・ 「マーケティングの活用」という言葉の使い方に違和感がある。「マーケティングへの活用」が正しい。
- F委員
- ・ 各種データの分析・活用も重要なテーマと考える。オープンデータの活用に加え、各種データの民間事業者へのデータ提供を行い、積極的活用に関わるようにしていただきたい。
- J委員
- ・ 近隣観光・地元観光の推進における区内の魅力ある観光発見のため、在勤・在学者を含む区民へのアンケート調査を提案する。区民が港区のどんどこに魅力や誇りを感じているか、その地区でお勧めのスポットや店舗施設、名物商品など、外からの目線ではない地元区民の意見を集めることは、今後の魅力的な近隣・地元観光を発掘する上で重要と思われる。同時に統計・データの分析活用による市場動向の把握にも繋がる。
  - ・ 特に、今まであまり焦点にならなかった区内公立校の児童生徒に同様の調査を行うことにも興味がある。子供たちに港区の魅力を考えさせることは将来的に区への愛着に繋がり、子供目線での新たな発見もあるかと思料する。方法については、以前MIM（ミナトメールマガジン）の読者に向けて行ったようなWEBによる回答の他、みなとコールなどでのプッシュホン式回答が検討できるのではないかと思われる。

**【施策5. 戦略的なシティプロモーションの推進】**

- A委員
- ・ 港区が観光客にどう見られたいか、足りないように感じる。「イメージ」はどう見られているかであり、一方、「情報発信」はどう見られたいかである。発信する側は自らの自意識を発信すべきである。
  - ・ 全体的に、観光客側の視点ばかり捉えられているように感じる。いわゆる遠方からやってくる「観光客」の視点でばかり記載され、区民の視点等が欠けているように感じる。
  - ・ テレビ局の集積も港区の特徴であるため、メディアの活用やメディアとの連携は港区ならではのと感じた。
- F委員
- ・ マスメディアの活用も大事な要素と考える。港区の特長の一つとしてTV各局が立地し、ラジオなど他のメディアも数多く立地している。こうしたメリットを活かして、是非連携等図っていききたい。現在、どのような連携を行っているのか情報がほしい。是非、今後も積極的に連携していくべきと考える。
- G委員
- ・ 港区は様々な観光コンテンツを有しており、観光の在り方がより多様化し

ていく中で、訪れる観光客にはもちろん、居住者や就労者をはじめとした様々な層に対し、それぞれの持つニーズに応じた情報発信をしていくという方針は、区のさらなる活性化にも直結することとなるので、積極的に推進していくことが求められる。

H委員

- ・ 新たな取組として「外国人、留学生目線による情報の収集・発信」を入れてはどうか。(一社)港区観光協会や外国人ライター等と連携し、外国人や留学生の視点による港区 PR やプロモーションを検討する、というものである。

#### その他のご意見

K委員

- ・ 観光振興ビジョンを描くときに必要なことは、「港区の産業振興」、「商店街の活性化」、「文化・芸術にふれ豊かな生活と人生を謳歌できる港区」、「芸術・文化の港区」が標榜できる施策の具体化ではないかと考える。
- ・ 最近落成した「伝統文化交流館」、「港区立みなと科学館」。新駅として「JR高輪ゲートウェイ」、「地下鉄日比谷線虎ノ門ヒルズ駅」を表面にだし、関係部署と連携して盛り上げることができるのではないかと考える。盛り上げるためには、港区、港区観光協会、港区観光ボランティアの会の連携が不可欠である。お互いが知恵をだす「プロジェクト」を立ち上げ検討することも大切と考える。特に、個々に提案することも大事だが、古い言葉だがブレインストーミング的な議論の場も必要と考える。「伝統文化交流館」については、例えば「文化・芸術」と「産業振興」を組み合わせるイベントも可能ではないか。「みなと科学館」においては、「科学技術」と「関連企業」との連携により世界に発信できるイベントも可能であると考えられる。
- ・ 国としても「共生社会」、「SDGs」を標榜する時代であるので「港区の観光はバリアフリー」であるべきと思う。このため、身体障がい者が自由に動ける、丁寧に案内できる仕組みと要員配置を進めるべきと考える。例えば、地域を限定して車両の往来を止める、車椅子で安全・安心を担保できるように関連部署と連携を取ることで実現できると思う。
- ・ ある観光業者が言い出した「マイクロツーリズム」の意味を置き換えると地方都市の皆様の中には、自分の生まれ育った地域から一步も外に出ない方々も多いと思われる。このような環境にある方を港区へ誘い出す仕組みを港区の「全国連携担当者」と連携し交流促進を図るべきと考える。
- ・ 一時的に国、東京都、港区はそれぞれ経営者を助けるための助成を受けられる制度が充実していると言える。しかし、そろそろ限度に近づきつつあるのではないかと。
- ・ 委員長は、「コロナがもたらしたもの」の中で「ICT環境」、「VR」、「ワーケーション」、「ユニバーサル・ツーリズム」等の言葉で将来の観光の在り方を述べられた。少し経験のある立場としては、実現性と有効性が期待出来ると思う。港区にモデル地区を設定して試行実施したいところである。港区の企業等との連携により迅速に実現できるコロナ禍、アフターコロナにおける観光振興政策の一つと言えるのではないかと。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍においては、感染症対策を順守し、小規模、時間短縮、コースの厳選等を実施することにより感染症を防止できるのでは無いかと思いたい。しかし、感染者数の増加は東京、国内、世界にあっては増加の様子を呈している。やはり、焦らず、様子を見ながら観光ツアーを行うべきと思う。</li> <li>・ 運河に面した港区は、3密を防げる舟運ツアーは魅力の一つと言える。洋上から港区をアピールできる目玉であると思う。</li> <li>・ 現状においては、東京 2020 大会開催の有無が不確かなことが感じられる。しかし、開会することを想定した観光振興ビジョンの具体化を議論・検討する必要があると思う。</li> </ul>
A委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
B委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
C委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
D委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
E委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
F委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
G委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
H委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
I委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
J委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>
K委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン(後期3年)見直しにおける具体的取組(案)について」は承認する。</li> </ul>

事務局	委員の皆さまからいただいた意見を踏まえて、具体的取組（案）の見直しを進め、第3次観光振興ビジョン素案の作成を進めていく。
委員長	<p>（結論）</p> 審議事項「第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける具体的取組（案）」について、承認11、否認0名意思表示があったため、港区観光振興ビジョン検討委員会として、承認するものとする。



## 【会議録（書面会議）】

会 議 名	令和2年度第4回港区観光振興ビジョン検討委員会（書面会議）
開 催 日 時	令和2年10月30日（金） 会議開催通知及び資料送付 令和2年11月6日（金） 委員からの意思・意見集約
開 催 場 所	書面会議により開催（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため。）
委 員 員	東 徹 委員長 渡邊 仁久 委員 平林 隆浩 委員 高尾 英樹 委員 長尾 哲治 委員 荒井 隆一郎 委員 服部 崇 委員 小門 謙 委員 グリュモフ イザティラ 委員 唐木 ひろ子 委員 野村 知義 委員
事 務 局	港区 産業・地域振興支援部 観光政策担当
会 議 次 第	審議事項 第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について
送 付 資 料	次第 資料1 第3次港区観光振興ビジョンの改定（素案）について 資料2 第3次港区観光振興ビジョンの改定（素案）本編 資料3 第3次港区観光振興ビジョンの改定（素案）概要版 資料4 第3次港区観光振興ビジョン（後期3年）見直しにおける具体的取組（案）に対するご意見 資料5 第3回港区観光振興ビジョン検討委員会議事録 別紙 意向確認書

会議の結果及び主要な意見

第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について

(意見者)

(委員からの意見)

A委員

- ・ 旅行・観光消費額に占めるインバウンドの割合は、大阪と東京が突出して高い（大阪 46.2%、東京 44.8%、ちなみに京都市は 29.2%）。したがって、「インバウンド・ロス」の影響は他の地方より大きいといえる。
- ・ 2 ページ目にあるように「国際観光」の回復は当面見通せず、日本のインバウンドの回復がいつになるかはまったく不透明である。インバウンドの回復には、日本の感染状況だけでなく、他国（送り出し国）の感染状況も影響するから、結局はワクチンや治療薬の開発・普及を待つほかはない。国は出入国規制の緩和に乗り出しているが、国民の抵抗感もあることから、一気に「観光」の緩和とはいきにくいし、なにより大きな痛手を受けている航空会社が国際線を増便させる体力が回復するかどうか大きなカギを握る。したがって、当面は国内観光に重点をおかざるを得ない。港区の施策においても「当面は国内観光に重点を置く」ことをより明確に示すべきではないか。ただし、人材育成に関しては、急ごしらえでできることではないので、需要の動向・増減にかかわらず進めておくべきであろう。
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。

B委員

- ・ 異議なし。
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。

C委員

- ・ 異議なし。
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。

D委員

- ・ 異議なし。
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。

E委員

- ・ コロナ禍の中でオリ・パラも控え大変難しい後期3カ年ではあるが、皆様のお蔭で港区にふさわしく大変素晴らしい素案ができたと感じている。
- ・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。

F委員

- ・ 「改定のポイント」として、住んでみたい、訪れてみたいまちを目指す、との記載があるが、“安心・安全”の視点は大変重要だと思う。施策1.(3)に安全・安心というワードはあるが、観光振興と安全・安心の両立を如何に担保するか、緊急時や防災の取り組みに加えて更なる具体的な取り組み

	<p>が重要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「改定のポイント」として、在住者にとっての利便性・快適性との記載があるが、一時、国内外で“観光公害”と言われるような現象が大きな問題となったこともあった。大勢の観光客が訪れるような観光地では、観光客のマナーの悪さも目につき、在住者の中には観光振興を快く思わない考えもでてくる。その両立を如何に図っていくかという視点も重要になると考える。</li> <li>・ 「MINATO ロケーションバンク」について、私が知らないだけなのかもしれないが、ご存知ない方もいるかと思うので、用語解説があった方が良いのではないか。</li> <li>・ 施策の体系と施策・取組一覧の着色・新規取り組みとが合致していないようだが。</li> <li>・ 誤記あり <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 修正：虎ノ門ビルズ駅→虎ノ門ヒルズ駅（p59）</li> <li>➢ 修正：電子的的な→電子的な（p63 下から7行目）</li> </ul> </li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。</li> </ul>
G委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで意見させていただいたことも反映されているので、第3次港区観光振興ビジョン（素案）については異議なし。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。</li> </ul>
H委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内容は非常によくまとまっており、異議なし。</li> <li>・ 体裁については、以下の工夫をして頂ければ見やすくなると思う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 箇条書きの段落下げ（図表4）</li> <li>➢ 虎ノ門ヒルズ駅の開設年度の修正（第1章3(2)）</li> <li>➢ 関連計画のセンタリング修正（図表15）</li> <li>➢ 章番号と文頭を揃える（全体を通して）</li> <li>➢ フォント統一（第2章6）</li> <li>➢ 英数字フォントの統一（英字は半角、数字は1桁全角、2桁以上半角）</li> <li>➢ 文章中の「根拠（エビデンス）」の“エビデンス”は不要では（第3章5施策4）</li> <li>➢ 箇条書きの空白余白の調整（全体を通して）</li> </ul> </li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。</li> </ul>
I委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。</li> </ul>
J委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異議なし。</li> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認</li> </ul>



する。

K委員

- ・ 「憧れの港区」の標語については、「思い上がり」と思われぬか気になることである。人々はそれぞれに異なる魅力を感じるであろう。東京、港区に人口が集中するから、移住したくもなにもかも高く住めないからか。東京、港区とは異なる魅力ある地方都市にはもっと素晴らしい観光資源、物産が有るところは多い。今の時代、世代の方々は「憧れの港区」と思っているか。16万人から26万人に人口が増加し、さらに増加すると予測している。自然増加で6万人増えたのではなく、都心への一極集中としての現象ではないか。
- ・ この現象は「憧れの港区」があるからでだろう。しかし、仕事を求めてやむなく地方都市から移動して住む人々もいらっしゃると思う。ありふれている用語だが例えば、「魅力あふれる港区」、「きらめく港区」等の言葉を選択するのもひとつの方法ではないかと思う。「きらめく」については、芝地域情報誌に「煌めく芝地区」と既にある。上記の考えをもってその他にも私案を検討してみたが、今回の方針は「…の実現に向けて」であるため、素案のとおりとする。
- ・ 今回の港区観光振興ビジョンを提示する為の検討書であるため、「憧れの港区」実現を目指して区民一丸となって進めようとする気概が表現されればよいのかと思う。それを基本とするのであれば、文章中、及び図表14の「訪れたいまち、あこがれの港区」も表現を統一してはどうか。
- ・ コロナ禍を経験している我々は、観光振興は地域の活性化、産業、経済のかなめであることを身をもって知ったことと思う。観光振興と産業・経済振興等幅広い経済向上の礎になることを明確にすべきと考える。「まえがき」において、観光振興・発展の必要性を明記すべきと考える。
- ・ 楽しい観光は、地域における治安維持が確かであることが不可欠である。では、それを維持し安全・安心社会を守って頂くのは、警察署、消防署ともいえるかと思う。すなわち、観光振興を進めるうえで必要な関係部署との緊密な連携は大切であると思う。積極的に関係部署との連携促進を図るべきと考える。明記すべきと思う。
- ・ 歴史的な建造物を中心にした観光ルートから、港区としての本当の良さ、魅力を感じる人々の温かさ(例えば、商店街を通学する生徒に対して温かく見守る等)、地域の成り立ち、町会における人と人とのつながり、地域の変遷(昔は工業地帯であった、しかし再開発でこのように都市が変化している等)などを織り込んだ観光ルート開発が必要と考える。そのためには、地域の町会との連携が必要である。
- ・ 港区内には、外国人が経営する商店が多いのではないかと考えている。委員の住む地域には、中国、韓国、イラン、インドなどから来日した外国人がいらっしゃる。その方々には、外国からの来日者に対して言葉などで困っている場合、支援して頂けるようお願いしている。その方々にも、港区観光振興を支援して頂けるような仕組みづくりも必要ではないかと考えている。簡易な観光案内所を各商店街の空き店舗を利用して設置し、地域のボランティアの皆様と協力していただき案内する仕組みを作るべきと考えている。

- ・ 一般的なデジタル技術ではあるが、広く普及したスマートフォンを活用した多言語処理できる案内基地を多くすべきと思う。観光案内掲示板に音声案内できるQRコードを印刷し、だれでも、いつでも地域と歴史を知ることが可能な仕組みがあると喜ばれると思う。当然、英語で併記されているので、現状において問題ないと思う。しかし、多言語でも対応できるようにするためには、コード表示による音声案内は便利であると考え。
- ・ 委員は、新橋で開催される全国物産展において地方都市の見どころを港区民にPRして頂く「物産展トークイベント」を区の生涯学習の担当、全国連携の担当のご後援を得て企画・実施した。更に発展させ、「鳥取県の町との体験交流事業」を実施致した。コロナ禍にあつては、地方都市との交流と港区への観光交流を促進させるべきと考え、「港区観光大使」は、全国連携している地方都市に出向き、港区の良さをPRする観光促進を図るべきと考える。来る人を待つのではなく、地方都市から人を誘導する仕組みづくりが必須と考える。そのために、観光大使を派遣してのPR活動にまさしく大使としての活躍の場を提供すべきと考える。
- ・ 共生社会、SDGsの実現に向けた先駆的な区としての新たな取り組みが必要と思う。例えば、車椅子を利用される方々に対して、安全に走行、見学できるような道路整備、観光案内ルート、支援の仕組みを整備する必要があると考える。特に、道路については、様々な制約があるが、関係部署との連携・協力により実現できると考えている。坂道の多い港区にあつては、移動手段の困難さがあるので、支援者を増やす、安全対策を講じる等の具体的な工夫が必要となる。関係部署と連携して、例えば日曜日限定して車両の往来を禁止するような思い切った施策を試行することも必要と考える。
- ・ コロナ禍の現在、終息後の観光振興策、東京オリンピック・パラリンピック開催後を見据えたビジョンは幾つか記述されている。しかし、一項設けて「東京オリンピック・パラリンピック、コロナウイルス感染症終息とその後を見据えた施策」を提示し、さらに港区の観光振興ビジョンを進化・発展させる考え方を発信すべきと考える。例えば、「お台場海浜公園(港区台場一丁目)トライアスロン会場」には、レガシーとして海水浴場として位置付けて港南地域の観光振興と産業振興を図る等のビジョンを提示しておくことが必要と思う。
- ・ 歩行困難な高齢者、障がい者が気軽に区内の観光ルートを周遊できるようにするため、「ちいバス」を定期的に観光のために利用できるようにし(要許認可)、利便性を図る施策も必要ではないか。港区と隣接する千代田、渋谷、品川、目黒区などと連携し、観光ルートを拡大し、街歩きの楽しさを増やす施策も検討する時期ではないか。期間を設定して、港区独自のサービス券を付けた周遊観光乗車券を発行したらどうか。
- ・ 保護者同伴で小学生が区内の街歩きできる機会を積極的に作り、青少年の頃からふるさと港区を知り、愛着を持つ施策も必要と考える。小学生に、「港区の観光」を目的とした教育も試行したらと思う。港区の生活の様子、商店街の雰囲気理解できる場合もある。歴史探索コースと合わせての観光ルート開発も必要と思う。
- ・ 港区オリジナルの物産、工芸品等の特産品を展示、販売できる場所の設置。ところどころには、展示販売場所が見受けられるが、一同に備えた場所はない。

	<p>港区役所近傍に設置したらどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）について」は承認する。</li> </ul>
事務局	<p>委員の皆さまからいただいた意見を踏まえて、第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）の見直しを進め、庁議案として取り纏めていく。</p>
委員長	<p>（結論）</p> <p>審議事項「第3次港区観光振興ビジョン後期計画の改定（素案）」について、承認 11、否認 0 名の意思表示があったため、港区観光振興ビジョン検討委員会として、承認するものとする。</p>